

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています ●
● 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます ●

銀座のなかにも、さまざまなエリアがあります。地域ごとに特徴があります。そのなかでも、かつて「木挽町」であった東銀座地域は、西側と歴史も異にしています。また、現在の「地区計画」においても、違った位

置づけがなされています。そのような地域で今後、どのような街づくりをしていけばいいのでしょうか。慶応義塾大学の学生さんたちが、この地域を調査研究してくださいました。

∴ 銀座街づくり会議シンポジウム ∴

慶應義塾大学 銀座研究

旧木挽町の再発見 東銀座の将来像を考える — 学生たちの提案

旧木挽町の歴史と性格

9月25日、シンポジウム「旧木挽町の再発見」が開催されました。

最初に、都市史研究家の岡本哲志さん（岡本哲志都市建築研究所）から、「旧木挽町とはどういう場所か」というタイトルでお話がありました。400年前（江戸幕府が出来前）から江戸前島に、銀座と木挽町の一部はすでに存在していました。江戸になって東海道（現在の銀座通り）が通され、江戸の街建設のために働く木挽き職人が三十間堀の周辺に住み始めました。その海側には大名屋敷が出来始めました。また、木挽町のみゆき通り沿いに芝居小屋ができ、その先に浜離宮ができて、みゆき通りがたいへんな賑わいになっていきます。

明治になって銀座煉瓦街ができると、木挽町の名屋敷は高級住宅地になっていきました。木挽町に住み、銀座で商いをする人がたくさんいました。ところが関東大震災後に幅の広い昭和通りができたことで、銀座と木挽町は遠くなってしまいます。また晴海通りの拡幅も、木挽町の土地柄を分断してしまったのではないかと岡本さんは指摘します。この2つの通りをもっとヒューマンな空間にすれば、旧木挽町のアイデンティティがもっと出て来るのではないかと提案されました。

東銀座の問題点とポテンシャルの提案

慶応義塾大学小林博人研究室のみなさんは、約1年半かけて東銀座を調査しました。何度も足を運び、「この街らしさとは何か」を調べ、街の人にインタビューも重ねたそうです。

そのうえで用途、空間を使っている人、路地空間の使い方など、西と東を比べてみました。東銀座には、芸能文化、中小規模のオフィスや工場、メガオフィス、住居の4つの特徴をもったエリアが存在します。また、劇

場や料亭、花街など独自の文化と商業が結びついた場所であることがわかりました。近年の動向としては、高層オフィスや高層住宅ができるようになり、風景が変化しています。

これらの分析をふまえ、東銀座の問題点として「地域アイデンティティが弱い」「劇場や料亭の衰退」「多様性や賑わいが少なくなっている」などがあげられ、ポテンシャルとしては「芸能文化の歴史がある」「メディア系産業の集積がある」ことがあげられました。ニューヨークと対比しながら、劇場とメディア産業の分析をした後、通路空間としての役割しか持たない通りを、さまざまなコンテンツを包含する、もっと面的なつながりとしていくべきという提案がなされました。

次に、この地域の独特の文化に着目し、その文化を活性化させることで街に賑わいをもたらすための提案が、木挽町通りに対してありました。それは①新たな看板的な役割をもつ空間をつくること、②野外劇場をつくる、③通りに開かれたオフィス空間をつくる、というものです。これらの提案の根拠が、歴史や調査をふまえて詳しく説明されました。

当日の出席者は、京橋四之部連合町会のみなさんをはじめ約120名。模型も見ながら、最後まで熱心に説明を聞いていました。アンケートでも「もっと木挽町の歴史を知りたい」といったご意見がありました。

銀座街づくり会議では今後もシンポジウムを開催し、この地域の将来像について皆様のご意見をお聞きしていきたいと思っております。



このシンポジウムのDVDを貸し出ししております。ぜひ町会や各店舗での勉強会などにお役立てください。また、議事録冊子も完成次第、ホームページで公開いたします。もう少々お待ち下さい。